

未満では1年生存率が100%であるのに対し、8点以上では50%と予後不良となるものの、8点以上の症例においても肝移植後の1年生存率は80~90%と高値であることから、Grade B 後半、あるいはCに相当する場合、肝移植を考慮する必要があると思われる。また肝硬変患者のとくに短期間での予後予測として、MELD(model for end-stage liver disease)スコアが有用である。MELDスコア14点以下では肝移植の利益が少なく¹⁾、逆に高すぎると移植自体のリスクが上昇することから、MELDスコアが15点から移植を考慮し、高くなりすぎないうちに実施することが望ましい。実際には患者の日常生活動作(ADL)、合併症、肝癌や感染症の有無などにより総合的に適応が判断される。

術前の血中ウイルス量が多い症例ほど術後のHBV再感染率が高いことより²⁾、B型肝炎患者に対しては、移植前より核酸アナログ製剤を投与し、血中ウイルスを陰性化またはできるだけ低下させることが重要である。核酸アナログ製剤未治療例に対しては、耐性ウイルスの出現率が低いエンテカビルが第一選択薬として推奨されている。また現在、移植を考慮する患者のなかにはラミブジンを長期内服し、YMDD変異などの耐性株が出現している患者も多く存在する。このような症例では、エンテカビルに対し交差耐性を獲得している場合が多く³⁾、エンテカビルへの切り替えは行わず、ラミブジンにアデホビルを併用することが推奨されている。

II. 肝移植後B型肝炎再発予防

この項のポイント

- B型肝炎再発予防として、HBIGと核酸アナログ製剤の併用が、現時点での標準的予防法である。

1. HBs抗原陽性のレシピエントにおける移植後B型肝炎再発予防

1990年代よりHBs抗原陽性のレシピエントに対し、ラミブジンあるいはHBIGの単独投与によりHBV再感染予防が試みられてきた。しかし、これらいずれかの単独投与では、30~40%の症例でHBV再感染が生じていた。1998年にUCLAのグループよりラミブジンとHBIGの併用療法が報告され⁴⁾、この方法により、ほぼ全例でHBV再感染の予防が可能となった。最近のメタアナリシスでも、併用療法はラミブジンまたはHBIG単独療法と比較して再燃予防に優れていることが報告された⁵⁾。HBIGは本邦では2008年2月に移植後B型肝炎予防を効能として保険適応となっている。現在では、移植術前より核酸アナログ製剤の内服を開始し、術中からHBIGを投与、術後は併用投与を行うのが標準的予防法となっており、この対策により、B型肝炎に対する肝移植成績は著明に向上している。当施設においても近年は、核酸アナログ製剤およびHBIGの併用によってHBV再感染を予防しており、B型肝炎疾患に対する最近5年間の移植成績は、他疾患に比べ良好である(図1)。

図2に当施設における標準的な周術期のHBV再感染予防プロトコールを示す。HBIGは、移植時の無肝期にまず10,000 IUを経静脈

用語解説

◆ occult HBV infection

HBs抗原陰性でHBe抗体あるいはHBs抗体が陽性の症例は、HBV既感染者として、臨床的には治癒と考えられている。しかしこのような既往感

染例でも肝細胞内にはHBV cccDNA(covalently closed circular DNA)が存在しており、occult HBV infection(潜在性HBV感染)と呼ばれる。

的に投与し、その後7日間は連日 HBs 抗体価を測定し、1,000 IU/l以上を維持するように投与する。HBIG は、その後1カ月間は HBs 抗体 500 IU/l、さらにその後最低1年間は 200 IU/l を維持するように投与する。核酸アナログの内服は、術前より開始し、術後も継続する。また

HBs 抗原/抗体および HBV DNA は定期的に検査を行う。当施設では、このプロトコールによって、1名を除き全例で血中 DNA 未検出が維持できている。血中 DNA が陽性化した1例は、核酸アナログ製剤と HBIG の併用療法にもかかわらず、肝臓の再発に伴い、血中 DNA が出現している。その原因は現時点では不明であるが、肝臓は、併用療法中の HBV 再感染のリスクファクターになりうるということが報告されており⁶⁾、移植後の肝臓再発例では注意が必要である。

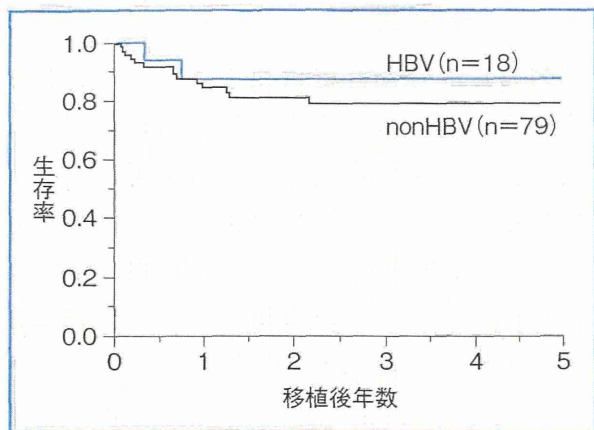


図1 当施設での B 型肝炎患者に対する肝移植成績(2007.1~2012.12)

2. occult HBV による *de novo* B 型肝炎予防

HBs 抗原陰性かつ HBc 抗体陽性 (HBV 既感染者) のドナーからの肝移植では、レシピエントの 78% に occult HBV 再活性化による *de novo* B 型肝炎が発症することが報告されてい

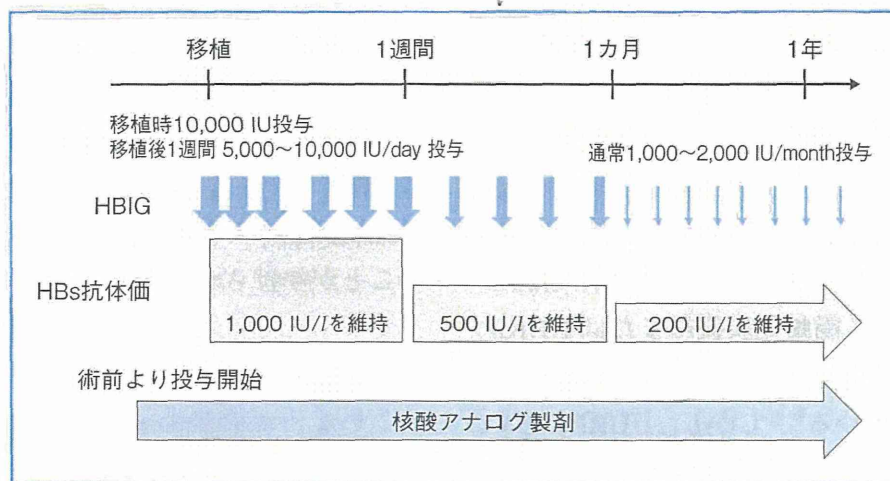


図2 広島大学での B 型肝炎レシピエントに対する標準的周術期 HBV 再感染予防プロトコール

用語解説

◆ *de novo* B 型肝炎

B 型肝炎既感染者において、リンパ腫に対するリツキシマブやステロイドなどの強力な免疫抑制・化学療法により、occult HBV が再活性化し重症肝炎が発症することが報告され、*de novo* B 型

肝炎と呼ばれ近年問題となっている。実は、最初に明らかとなった *de novo* B 型肝炎は、HBs 抗原陰性・HBc 抗体陽性ドナーからの肝移植後レシピエントに発症した B 型肝炎であり、この知見より *de novo* B 型肝炎予防の必要性が明らかとなった。

る^{7),8)}。ドナーがHBc抗体陽性であってもレシピエントがHBV陽性の場合、いずれにせよ抗ウイルス療法が行われるためあまり問題にならない。临床上問題となるのは、HBc抗体陽性のドナーからHBV未感染のレシピエントへの移植である。このようなoccult HBV再活性化の対策としてHBc抗体陽性者をドナーとして選択しないことが理想ではあるが、本邦では、人口の10~20%がHBc抗体陽性であり、生体肝移植がほとんどを占める本邦では選択肢は限られている場合が多い。今後、肝移植医療を推進していくうえで、*de novo* B型肝炎の効果的な予防法の確立が重要であるが、未だ十分なコンセンサスは得られておらず、HBIG投与のみ、核酸アナログのみ、併用療法と施設によってさまざまである。

当施設ではまず可及的にレシピエントに対し術前にHBワクチネーションを行い、能動免疫獲得を目指すべきと考えている。さらに、確立した予防法として前述のHBIGおよび核酸アナログ製剤併用による予防を行っている。このような処置により、当施設でHBc陽性ドナーから肝移植を行ったHBV未感染レシピエント9名は、いずれも現在までHBV再活性化は認めていない。最近のメタアナリシスでも、術前のHBワクチンによる能動免疫獲得またはHBIG/核酸アナログ製剤併用療法がもっとも有効であることが示されている⁹⁾。しかし、HBIGあるいは核酸アナログ製剤の単独投与でもHBV再活性化の予防が可能であるという報告もあり、今後の臨床研究の結果が待たれる。またワクチンによる抗HBV免疫を得ていたにもかかわらず、急性拒絶治療のためのステロイドパルスにて再活性化がみられた報告もあり、免疫抑制薬増量の際は頻回のHBs抗原/抗体およびHBV DNA検査でモニターすることが重要である。

Ⅲ. HB ワクチン投与による能動免疫獲得の試み

この項のポイント

- HB ワクチンによる能動免疫獲得により、術後HBIGと核酸アナログ製剤からの離脱が可能である。
- 移植後の免疫状態適正化およびHBワクチン長期投与により、効果的な能動免疫の獲得が可能である。

前述したB型肝炎再発予防方法により、術後、血中ウイルスの陰性化が得られた場合でも、治療を中止すれば肝炎再発の可能性はある。このため、いつまで予防を継続する必要があるのかが問題である。これは医療経済的な問題のみならず、核酸アナログ製剤の長期投与による耐性株出現、およびHBIG投与時におけるHBs抗体エスケープ変異の可能性といった安全性の問題も含んでいる¹⁰⁾。この問題はoccult HBVによる*de novo* B型肝炎予防においても同様である。

移植後のHBワクチンによる能動免疫獲得は上記の問題を解決する有効な方法であるが、その奏効率率は10%前後と低く^{11),12)}、これまで広くは浸透していなかった。その原因として移植後の免疫抑制下で能動免疫を誘導することが難しいことが挙げられる。

<当施設での取り組み>

このような背景のもと、当施設ではCFSE-MLR(CFSE色素を用いた混合リンパ球試験)を用いた免疫モニター下に免疫抑制薬の適正化を行いつつ^{13),14)}、HBワクチネーションを行うことで、より効率的な能動免疫誘導、HBIGの離脱を試みている(表)。これらの方法により、当施設では、これまでHBワクチンを投与したHBV陽性レシピエント20例中13例(65%)でHBs抗体価の上昇が得られており、HBIGの離脱が可能であった。さらにHBIGを離脱した13

表 広島大学での肝移植後 HB ワクチンによる能動免疫プロトコールと投与症例背景

- ・ B 型肝炎再発予防
 - 術前：核酸アナログ製剤
 - 術中・術後：核酸アナログ製剤 + HBIG による HBs 抗体価の維持
- ・ 術後 1 年経過した HBV 肝移植レシピエントのうち、
 - ① HBIG 継続投与により HBs 抗体価が定常化
 - ② 原則として免疫抑制薬単剤投与
 のレシピエントに対し、
 - HB ワクチンを 1 vial (10 μg), または 2 vial/月
 - HBs 抗体価が 300 IU/l 程度に上昇するまで投与
- ・ 3~6 カ月ごとに混合リンパ球試験 (CFSE-MLR) による免疫モニタリングと免疫抑制薬調節による最適化を行う

	ワクチン投与症例	HBIG 離脱例
症例数	20	13 (核酸アナログ製剤中止：11 例)
年齢	54 (20~65)	50 (34~62)
性別 (男性：女性)	15：5	9：4
肝硬変：急性肝不全	18：2	12：1
移植からワクチン投与までの期間(月)	17.5 (6~44)	24 (6~44)
ワクチン投与期間(月)	12.5 (7~32)	13 (7~32)
HB ワクチン 2 vial/月 投与例	12	6
HBIG 投与量 (1,000 IU：2,000 IU/月)	17：3	11：2
免疫抑制薬 (タクロリムス：シクロスポリン：タクロリムス+ミコフェノール酸モフェチル)	15：2：3	11：2：0

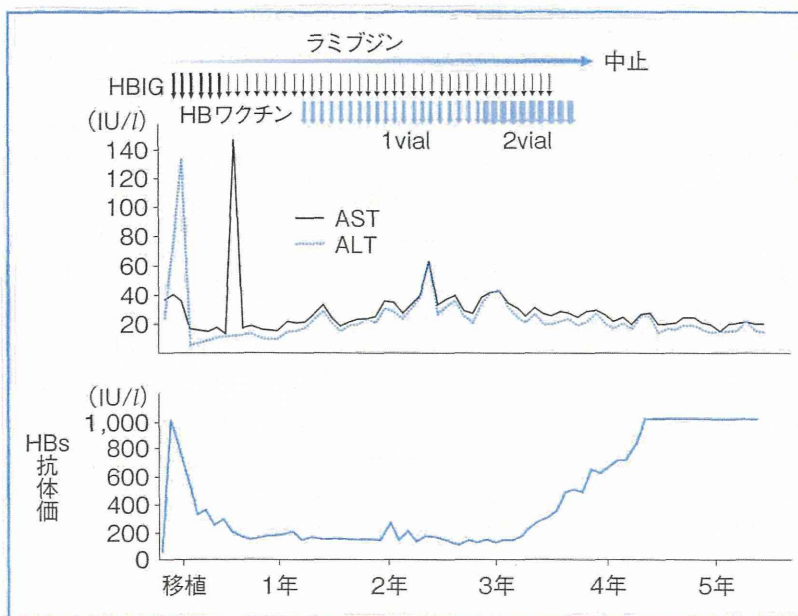


図 3 当施設での術後 HB ワクチンによる能動免疫の経過
症例：49 歳，女性，B 型肝炎硬変

例中 11 例(全体の 55%)では核酸アナログ製剤の中止も可能であり,いずれの症例においても,核酸アナログ製剤中止後も HBs 抗体価高値が維持されている. 図 3 にそのうちの 1 例の経過を示す.

HBIG を離脱した 13 例中 8 例で離脱後, HBs 抗体価の低下を認めたが, 短期間の HB ワクチン再投与にて抗体価は再上昇し, HBIG の再投与を必要としなかった. HB ワクチン療法中の免疫抑制状態を比較検討したところ, 反応群では抗ドナー特異的な免疫抑制状態であり third party に対する免疫を保っていたのに対し, 未反応群では, 抗ドナー非特異的な免疫抑制状態であった¹⁵⁾. 反応群のうち 6 例はワクチン投与開始後 1 年以上経過した症例であった. この結果より移植後の免疫状態を長期継続的に適正に保ち, 必要があれば HB ワクチン投与を長期に行うことが HB ワクチン療法奏効に重要と考えられる.

おわりに

今後, より効率的な新規 B 型肝炎ワクチン開発とともに, 標準化が望まれる.

文 献

- 1) Merion, R. M., Schaubel, D. E., Dykstra, D. M., et al. : The survival benefit of liver transplantation. *Am. J. Transplant.* 5 ; 307-313, 2005
- 2) Degertekin, B., Han, S. H., Keeffe, E. B., et al. : Impact of virologic breakthrough and HBIG regimen on hepatitis B recurrence after liver transplantation. *Am. J. Transplant.* 10 ; 1823-1833, 2010
- 3) Tenney, D. J., Rose, R. E., Baldick, C. J., et al. : Long-term monitoring shows hepatitis B virus resistance to entecavir in nucleoside-naïve patients is rare through 5 years of therapy. *Hepatology* 49 ; 1503-1514, 2009
- 4) Markowitz, J. S., Martin, P., Conrad, A. J., et al. : Prophylaxis against hepatitis B recurrence following liver transplantation using combination lamivudine and hepatitis B immune globulin. *Hepatology* 28 ; 585-589, 1998
- 5) Katz, L. H., Paul, M., Guy, D. G., et al. : Prevention of recurrent hepatitis B virus infection after liver transplantation : hepatitis B immunoglobulin, antiviral drugs, or both? Systematic review and meta-analysis. *Transpl. Infect. Dis.* 12 ; 292-308, 2010
- 6) Saab, S., Yeganeh, M., Nguyen, K., et al. : Recurrence of hepatocellular carcinoma and hepatitis B reinfection in hepatitis B surface antigen-positive patients after liver transplantation. *Liver Transpl.* 15 ; 1525-1534, 2009
- 7) Dickson, R. C., Everhart, J. E., Lake, J. R., et al. : Transmission of hepatitis B by transplantation of livers from donors positive for antibody to hepatitis B core antigen. The National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases Liver Transplantation Database. *Gastroenterology* 113 ; 1668-1674, 1997
- 8) Uemoto, S., Sugiyama, K., Marusawa, H., et al. : Transmission of hepatitis B virus from hepatitis B core antibody-positive donors in living related liver transplants. *Transplantation* 65 ; 494-499, 1998
- 9) Cholongitas, E., Papatheodoridis, G. V. and Burroughs, A. K. : Liver grafts from anti-hepatitis B core positive donors : a systematic review. *J. Hepatol.* 52 ; 272-279, 2010
- 10) Ueda, Y., Marusawa, H., Egawa, H., et al. : De novo activation of HBV with escape mutations from hepatitis B surface antibody after living donor liver transplantation. *Antivir. Ther.* 16 ; 479-487, 2011
- 11) Angelico, M., Di Paolo, D., Trinito, M. O., et al. : Failure of a reinforced triple course of hepatitis B vaccination in patients transplanted for HBV-related cirrhosis. *Hepatology* 35 ; 176-181, 2002
- 12) Rosenau, J., Hooman, N., Hadem, J., et al. : Failure of hepatitis B vaccination with conventional HBsAg vaccine in patients with continuous HBIG prophylaxis after liver transplantation. *Liver Transpl.* 13 ; 367-373, 2007
- 13) Ohdan, H. : Quantification of T-cell proliferation for individualizing immunosuppressive therapy

for transplantation patients. Clin. Pharmacol. Ther. 87 ; 23-26, 2010

- 14) Tanaka, Y., Ohdan, H., Onoe, T., et al. : Low incidence of acute rejection after living-donor liver transplantation : immunologic analyses by mixed lymphocyte reaction using a carboxyfluorescein diacetate succinimidyl ester labeling technique. Transplantation 79 ; 1262-1267, 2005
- 15) Tahara, H., Tanaka, Y., Ishiyama, K., et al. : Successful hepatitis B vaccination in liver transplant recipients with donor-specific hyporesponsiveness. Transpl. Int. 22 ; 805-813, 2009

Summary

Liver Transplantation for HBV-related Liver Disease

Takashi Onoe^{*,*3}, Shoichi Takahashi^{**},
Kazuaki Chayama^{**} and Hideki Ohdan^{*}

Liver transplantation (LT) is highly effective for patients with end-stage hepatitis B virus (HBV)-related liver disease. Nonetheless, HBV infections often recur after LT without prophylaxis. Currently, a combination therapy involving a nucleotide analog and hepatitis B immunoglobulin (HBIG) has been established as the standard prophylaxis for post-LT HBV reinfection. It has been shown to provide marked improvements in patient survival rates. This prophylactic therapy has also been shown to be effective for treatment of *de novo* hepatitis B in recipients who have received grafts from HBcAb-positive donors.

However, the regimen presently varies from institute to institute and a standardized regimen remains to be established.

Because this prophylactic regimen is costly and does not guarantee safety after long-term use, active immunization with an HBV vaccine post-LT is a preferable alternative. However, it has been reported that patients showed poor response to vaccinations because of the immunosuppressive environment (response rate : approximately 10%) induced post-LT. We scheduled mixed-lymphocyte reaction assays to monitor patients' immune status and to minimize immunosuppression, and performed unlimitedly repeated vaccinations. The overall response rate for vaccinations was 65%. Patients who exhibited responses were safely weaned off HBIG and/or nucleotide analogs in our institute. Thus, minimizing immunosuppression to induce an antidonor-specific immunosuppressive status should enable post-LT HBV vaccinations to become a promising prophylactic strategy.

Key words : hepatitis B, prophylaxis of hepatitis B recurrence after liver transplantation, occult HBV, HB vaccine, immunologic monitoring

^{*}Department of Gastroenterological and Transplant Surgery, Applied Life Sciences, ^{**}Department of Gastroenterology and Metabolism, Applied Life Sciences, Institute of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, 1-2-3 Kasumi, Minami-ku, Hiroshima city, Hiroshima 734-8551, Japan

^{*3}Institute for Clinical Research, National Hospital Organization, Kure Medical Center/Chugoku Cancer Center

201320002A (別刷 2/2)

厚生労働科学研究費補助金

肝炎等克服緊急対策研究事業

肝移植後 C 型肝炎に対する治療法の標準化を目指した

臨床的ならびに基礎的研究

平成 25 年度 総括・分担研究報告書

【 研究成果の別刷 (各 1 部) 2 冊目/2 冊 】

研究代表者 上本 伸二

平成 26 (2014) 年 6 月

Evaluation of eligibility criteria in living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma by α -SMA-positive cancer-associated fibroblasts

HIROYUKI TAKAMURA¹, SHINICHI NAKANUMA¹, HIRONORI HAYASHI¹, HIDEHIRO TAJIMA¹, KAHEITA KAKINOKI², SEISYO SAKAI¹, ISAMU MAKINO¹, HISATOSHI NAKAGAWARA¹, TOMOHARU MIYASHITA¹, KOICHI OKAMOTO¹, KEISHI NAKAMURA¹, KATUNOBU OYAMA¹, MASASHI INOKUCHI¹, ITASU NINOMIYA¹, HIROHISA KITAGAWA¹, SACHIO FUSHIDA¹, TAKASHI FUJIMURA¹, ICHIRO OHNISHI¹, MASATO KAYAHARA¹, TAKASHI TANI¹, KUNIAKI ARAI², TARO YAMASHITA², TATSUYA YAMASHITA², HOSHIKO KITAMURA³, HIROKO IKEDA^{3,4}, SHUICHI KANEKO², YASUNI NAKANUMA³, OSAMU MATSUI⁵ and TETSUO OHTA¹

Departments of ¹Gastroenterologic Surgery, ²Gastroenterology, ³Diagnostic Pathology, ⁴Human Pathology and ⁵Radiology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa 920-8641, Japan

Received March 21, 2013; Accepted June 7, 2013

DOI: 10.3892/or.2013.2616

Abstract. The eligibility criteria of liver transplantation (LT) for hepatocellular carcinoma (HCC) must clearly confirm the prognosis not only from pathological diagnosis but also from pre-operative imaging diagnosis. In the present study, we evaluated published eligibility criteria for LT based on both pre-operative imaging diagnosis and pathological diagnosis using living donor liver transplantation (LDLT) recipients at our hospital by α -smooth muscle actin (SMA)-positive cancer-associated fibroblasts (CAFs) in HCC. The Up-to-seven (Up-to-7), Asan and Tokyo criteria were evaluated, in both

overall survival and HCC disease-free survival, to be statistically significantly beneficial criteria to define post-LDLT prognosis. Recipients only within Up-to-7 criteria based on both pre-operative imaging diagnosis and pathological diagnosis survived without HCC recurrence. Recipients with proliferation of α -SMA-positive CAFs in HCC had significantly poorer prognosis. All survival recipients without HCC recurrence, who were above the Up-to-7 criteria in pathological diagnosis, had no proliferation of α -SMA-positive CAFs. As a result of multivariate analysis, the significant independent factors defining prognosis of recipients after LDLT for HCC were Up-to-7 criteria and proliferation of α -SMA-positive CAFs. The ideal eligibility criteria for LDLT with HCC is Up-to-7 criteria and α -SMA-positive CAFs was considered to be an important factor in HCC recurrence. LDLT should be limited to recipients within Up-to-7 criteria or without proliferation of α -SMA-positive CAFs.

Correspondence to: Dr Hiroyuki Takamura, Department of Gastroenterologic Surgery, Kanazawa University, 13-1 Takaramachi, Kanazawa, Ishikawa 920-8641, Japan
E-mail: takamuh@staff.kanazawa-u.ac.jp

Abbreviations: AFP, α -fetoprotein; CAFs, cancer-associated fibroblasts; CTAP, computer tomography under angiography during arterial portography; CTHA, computer tomography under angiography during hepatic arteriography; DCP, des- γ -carboxyprothrombin; DDLT, deceased donor liver transplantation; HCC, hepatocellular carcinoma; DFS, disease-free survival; dynamic MDCT, dynamic multi-detectable-row computer tomography; Gd-EOB-DTPA-MRI, gadolinium ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging; HBV, hepatitis B virus; HCV, hepatitis C virus; LC, liver cirrhosis; LDLT, living donor liver transplantation; LT, liver transplantation; OS, overall survival; RFA, radiofrequency ablation therapy; TACL, transarterial chemo-lipiodolisation; Up-to-7, Up-to-seven criteria

Key words: living donor liver transplantation, hepatocellular carcinoma, cancer-associated fibroblast, Up-to-seven criteria, α -smooth muscle actin

Introduction

In 1996, eligibility criteria such as the Milan criteria (MC) of liver transplantation (LT) for hepatocellular carcinoma (HCC) were reported by Mazzaferro *et al* (1). MC emphasized LT as a therapeutic option for patients with HCC. Living donor liver transplantation (LDLT) is virtually the only option for patients with HCC in the east Asian countries such as Korea (2) or Japan (3-9), where the number of deceased donors is limited, and for patients above MC in western countries such as the United States and in Europe. Therefore, understanding how far the criteria of LT for HCC can be extended in LDLT from MC is key in improving the outcomes in regions with limited organ donors. There have been several reports of expanded criteria as indications of LT for HCC, such as the Up-to-seven (Up-to-7) criteria (10),

University California of San Francisco (UCSF) criteria (11), Asan criteria (2), Tokyo (5-5 rule) criteria (3), Kyoto criteria (4,5) and Kyushu criteria (6-8). In addition, Kyoto criteria (4,5) and Kyushu criteria (6-8) showed pre-operative tumor markers such as the des- γ -carboxyprothrombin (DCP) level. In the present study, we evaluated the predictive values of the previously proposed selection criteria, including Up-to 7 criteria, UCSF criteria, Asan criteria, Tokyo criteria, Kyoto criteria and Kyushu criteria, on the overall survival (OS) and HCC disease-free survival (DFS) of LDLT recipients with HCC. These criteria are categorized into several types which are based only on pre-operative imaging diagnosis, or on pathological diagnosis of the explant liver, which consider microvascular invasion as above criteria, and take account of tumor markers. According to Japanese national data (9), in addition to the MC, it is reported that the values of tumor markers [α -fetoprotein (AFP) and DCP] define prognosis, but as various factors are involved in tumor markers, it is difficult to incorporate them into international eligibility criteria of LT for HCC. Regardless of whether it is deceased donor liver transplantation (DDLT) or LDLT, the criteria of LT for HCC should be defined solely by simple factors such as tumor diameter or number to guarantee their international applicability. Furthermore, eligibility criteria of LT for HCC must significantly define the prognosis for recipients in evaluations which are based not only on pathological diagnosis of the explant liver, but also on pre-operative imaging diagnosis. However, it is important to perform pre-operative imaging diagnosis of HCC close to post-operative pathological diagnosis. If the accuracy of imaging diagnosis of HCC is low, the reliability of the criteria decreases, therefore, pre-operative imaging diagnosis should be performed accurately using some imaging diagnostic modalities. In order to enhance imaging diagnostic accuracy for HCC, in addition to dynamic multi-detector-row computer tomography (dynamic MDCT) and gadolinium ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging (Gd-EOB-DTPA-MRI) (12,13), we also obtained images as far as possible using CT under angiography [during arterial portography (CTAP) and during hepatic arteriography (CTHA)] (14-17). In view of the fact that a healthy living donor is exposed to major risks by hepatectomy, recurrence of HCC after LT in the recipient must be avoided. To receive LDLT under Japanese health insurance, although no restrictions are imposed as to therapeutic history 3 months prior to LT, the recipient must satisfy the MC in the pre-operative final imaging diagnosis. Eligibility criteria have been reported by various high-volume centers in Japan (3-8) and there are attempts to widen eligibility of LDLT for HCC under health insurance. In this context, in order to expand the eligibility criteria from within MC, we evaluated which criteria were the most suitable from the two viewpoints of pre-operative imaging diagnosis and pathological diagnosis with recipients who had performed precise pre-operative diagnostic imaging and had been observed for >5 years after LDLT for HCC. Furthermore, we evaluated the appropriateness of the above criteria from the viewpoint of proliferation of α -smooth muscle actin (SMA)-positive cancer-associated fibroblasts (CAFs), which are strongly related to cancer progression and invasion (18,19). However, there are no reports which evaluate HCC recurrence after LT from the

viewpoint of α -SMA-positive CAFs. We therefore evaluated the relationship between HCC recurrence after LDLT and proliferation of α -SMA-positive CAFs, as well as the correlation between eligibility criteria and α -SMA-positive CAFs.

Materials and methods

Patients. From July 2003 to December 2007, 22 consecutive LDLTs for liver cirrhosis (LC) with HCC were performed at Kanazawa University Hospital (Ishikawa, Japan) after receiving approval from the Ethics and Indications Committee of Kanazawa University. Our selection criteria for the patients with HCC were as follows: no modality except LDLT available to cure patients with HCC and end-stage liver disease, no extrahepatic metastasis and no macrovascular invasion such as portal vein or hepatic vein infiltrations. We limited adaptation of LDLT for HCC to within MC under health insurance of Japan since January 2008, but performed LDLT for above MC recipients by own expenses until December 2007. Therefore targeted cases for the present study were limited to recipients who had undergone LDLT by December 2007. Twenty-two patients had HCC, proven histologically. The median age of the 22 patients was 55.5 years (range, 47-64 years). Written informed consent for the present study was obtained from each patient. In addition, the study was approved by the Kanazawa University Ethics Committee. Tumor-specific evaluations, including abdominal and thoracic dynamic MDCT, abdominal CTAP, abdominal CTHA, abdominal Gd-EOB-DTPA-MRI, bone scintigraphy, and the determination of AFP and DCP (Protein induced by Vitamin K, PIVKA-II), were performed for all LDLT candidates. The diameter and number of HCCs were determined by multiple radiologists, based on pre-operative imaging studies within one month of LT. Thus, the variables used in the criteria, including tumor diameter and number, were based on these data. The explants were examined histologically. For pathological examination, whole liver explants were fixed in 10% formalin and cut into 5-mm slices to facilitate gross and histological examinations. Following macroscopic examination, the nodular lesions were embedded in paraffin, cut into 4-inch sections and stained with hematoxylin and eosin. The incidence of microvascular invasion and histological grades were subsequently estimated within these criteria. Microvascular invasion was defined as microscopic portal vein or hepatic vein invasion of cancer cells. The stage was determined for each patient according to the AJCC/UICC (6th edition) guidelines (20) and UNOS TMN (21). Among the 22 patients, 10 (45.5%) met the MC according to pre-operative first imaging diagnosis, while 12 did not. According to previous studies, Up-to 7, UCSF, Asan, Tokyo, Kyoto and Kyushu criteria were applied and the predictive impacts of these criteria for HCC recurrence were evaluated by univariate analyses. The previously proposed selection criteria for HCC are briefly described below and are shown in Table I. The Up-to-7 criteria are defined as HCC with seven as the sum of the diameter of the largest tumor (in cm) and the number of tumors. The UCSF criteria are defined as HCC meeting the following criteria: solitary tumor of ≤ 6.5 cm, or ≤ 3 nodules with the largest lesion of ≤ 4.5 cm and a total tumor diameter of ≤ 8 cm. The Asan criteria are defined as HCC meeting the following criteria: tumor up to

Table I. Summary of published outcomes of liver transplantation for HCC between recipients satisfying expanded/extended eligibility criteria.

Eligibility criteria name and definition	Authors, year (ref.)	Study design and staging method	Tumor characteristics	Cases (n)	OS (%)			DFS (%)		
					1-year	3-year	5-year	1-year	3-year	5-year
UCSF criteria: no extrahepatic spread or macrovascular invasion. Solitary tumor with diameter ≤65 mm, or ≤3 nodules with maximum diameter ≤45 mm and total tumor diameter ≤80 mm.	Yao <i>et al</i> , 2001 (11)	Retrospective analysis. Staging: explant pathology	Within UCSF criteria and above MC	60	90		75.2			
			Above UCSF	10	50	20	-			
Up-to-7 criteria: no extrahepatic disease or microvascular invasion. Sum of number of nodules and diameter of largest nodule (cm) ≤7	Mazzoferro <i>et al</i> , 2001 (10)	Retrospective analysis. Staging: explant pathology	Within Up-to-7 criteria and above MC without microvascular invasion	283		77.7	71.2			
			Within Up-to-7 criteria and above MC with microvascular invasion	116		60.2	47.4			
			Within MC without microvascular invasion	361		81.8	76.1			
			Within MC with microvascular invasion	44		77.1	71.6			
			Above Up-to-7 criteria and without microvascular invasion	333		71.8	64			
			Above Up-to-7 criteria with microvascular invasion	338		41.7	33			
Asan criteria: no extrahepatic disease or macrovascular invasion. ≤6 nodules with maximum diameter 50 mm.	Lee <i>et al</i> , 2008 (2)	Retrospective analysis. Staging: explant pathology	Within Asan criteria and above MC	22	100	88.9	80			
			Within MC	152	86.6	79.2	76			
			Beyond Asan criteria	32	65.7	34.1	18.9			
Tokyo criteria (5-5): No extrahepatic disease or macrovascular invasion. ≤5 nodules with maximum diameter 50 mm.	Sugawara <i>et al</i> , 2007 (3)	Analysis against predefined criteria. Staging: pre-LDLT radiology (imaging).	Within Tokyo criteria	72				97	94	
			Above Tokyo criteria	6				50	50	
Kyoto criteria: no extrahepatic disease or macrovascular invasion. ≤10 nodules with maximum diameter 50 mm. PIVKA-II ≤400 mAU/ml.	Ito <i>et al</i> , 2007 (4)	Retrospective analysis. Staging: explant pathology.	Within Kyoto criteria	78			86.7			
			Above Kyoto criteria	40			34.4			
	Takada <i>et al</i> , 2007 (5)	Retrospective analysis. Staging: pre-LDLT radiology (imaging).	Within Kyoto criteria	83			87			
			Above Kyoto criteria	44			37			
Kyushu criteria: no extrahepatic disease or macrovascular invasion. Any nodules with maximum diameter 50 mm. PIVKA-II ≤300 mAU/ml.	Shirabe <i>et al</i> , 2011 (8)	Retrospective analysis. Staging: pre-LDLT radiology (imaging).	Within Kyushu criteria and above MC	48				85	80	80
			Above Kyushu criteria	6				16.7	0	0

HCC, hepatocellular carcinoma; OS, post-operative overall survival rate of recipient; DFS, post-operative HCC disease-free survival rate of recipient; Up-to-7, Up-to-seven criteria; LDLT, living donor liver transplantation; MC, Milan criteria.

6 nodules with a maximum diameter of 5 cm without gross vascular invasion. The Tokyo criteria are defined as HCC meeting the following criteria: tumor of up to 5 nodules with a maximum diameter of 5 cm (5-5 rule) that are evaluated with pre-operative imaging. The Kyoto criteria are defined as HCC meeting the following criteria: ≤ 10 tumors that are all ≤ 5 cm in diameter and DCP of ≤ 400 mAU/ml. The Kyushu University criteria are defined as HCC with tumor diameter < 5 cm or DCP < 300 mAU/ml. In the 7 above MC recipients who underwent pre-LDLT therapy to downstage HCC, transarterial chemo-lipiodolisation (TACL) was performed in all cases, and radiofrequency ablation therapy (RFA) was also performed in 2 cases. The recipients who underwent pre-LDLT therapy for HCC were observed for ≥ 3 months from the end of the pre-operative therapy to LDLT. There were 4 out of 5 recipients who were downstaged from above MC (pre-operative first imaging diagnosis) to within MC (pre-operative final imaging diagnosis) by pre-LDLT therapy. In the 15 cases where LDLT was performed without prior therapy, the pre-operative first imaging diagnosis was considered the pre-operative final imaging diagnosis. There were 13 cases in total that received therapy for HCC in the past before LDLT; TACL had been performed in 11 cases and several treatments in 10 cases. RFA had been performed in 8 cases, percutaneous ethanol injection therapy (PEIT) in 5 cases and hepatectomy in 2 cases. In addition, transarterial infusion chemotherapy had been performed in only 1 case. The clinical follow-up of patients after LDLT for HCC followed a strict protocol, which did not change during the study period. The patients were seen biweekly for the first 6 months and then monthly. The patients underwent enhanced MDCT or Gd-EOB-DTPA-MRI at 4-6 month intervals. Liver biopsy, hepatic angiography with CT, bone scintigraphy or 2-Fluoro 2-deoxyglucose positron emission tomography (FDG-PET) CT was also performed if deterioration in the graft function or a rise in the AFP or DCP levels was noted. The mean follow-up period was 7 years.

Immunohistochemistry. The proliferation of α -SMA-positive CAFs was evaluated immunohistologically. When several tumors were present, the tumor with microvascular invasion was evaluated. If no microvascular invasion was found, tumors which had the poorer histological degree of differentiation or differentiated into biliary tract type (CK7-positive or CK19-positive), were evaluated. Tumor specimens were fixed in 10% formalin and embedded in paraffin. The expressions of α -SMA in HCC were examined immunohistochemically using respective primary antibodies using EnVision⁺ System (DAKO). De-waxed 4- μ m sections were incubated with 1:50 with protein blocking serum for 10 min to block non-specific binding and immunostaining was performed using EnVision⁺ System. Briefly, the slides were incubated with each primary antibody (1:50) at 4°C overnight. After washing, the EnVision⁺ polymer solution was applied for 1 h. The reaction products were visualized via a diaminobenzidine (DAB) reaction. The specimens were then lightly counterstained with hematoxylin and examined under a fluorescence microscope. Primary antibody used for immunostaining was Actin $\alpha 2$ Smooth Muscle rabbit anti-human polyclonal antibody (Novus Biologicals, Littleton, CO, USA).

Computer-assisted image analysis (19). We used computer-assisted image analysis to quantify the value of α -SMA expression in HCC. After staining for α -SMA, the histological sections were observed using a microscope equipped with a charge coupled-device color camera (Olympus Co., Japan) under constant electrical and optical conditions. A random selection of 10 fields in most poorly differentiated and α -SMA-positive CAF proliferating lesions of HCC were assessed for α -SMA expression. Using an imaging processor (VH Analyzer; Keyence Co., Japan) the percentage of α -SMA expression stromal area was quantified as the relative percentage of the α -SMA-positive stromal area to the selected fields of cancer.

Statistical analysis. All statistical analyses were performed using SPSS Software v20 (IBM-Japan, Tokyo, Japan). The continuous variables were compared using the Mann-Whitney U test. All variables are expressed as means \pm standard deviation (SD). The categorical data were compared using χ^2 tests. We compared Kaplan-Meier distributions of time to mortality or HCC recurrence after LDLT with the log-rank test or generalized Wilcoxon. Cox's proportional hazard model was used to identify independent variables for post-operative recurrence of HCC. The comparative evaluation was performed among the Milan, Up-to-7, Asan, Tokyo, Kyoto, Kyushu criteria, degree of α -SMA-positive CAFs and clinicopathological variables including pre-operative serum AFP levels and serum DPC levels, presence of microvascular invasion, histological grade of the tumor (poorly differentiated), the number of tumors and maximum diameter of tumor on the resected specimen. The differences were considered statistically significant when the P-value was < 0.05 .

Results

Table II shows background characteristics of 22 recipients who underwent LDLT for HCC according to post-LDLT with or without HCC recurrence. The average age of recipients was 56 years, 17 of whom were males, and the average MELD score of recipients was 14 points. There were 12 recipients with hepatitis C viral (HCV) hepatitis and 10 recipients with hepatitis B viral (HBV) hepatitis. Seventeen recipients were given right hepatic graft and 5 recipients were given left hepatic graft with caudate lobe. The average graft volume/standard liver volume ratio (GV/SLV) (22) of recipients was 46%. The average age of the donors was 36 years. There were 5 cases with acute cellular rejection (ACR) after LDLT (23%). No operation-related mortality of recipients occurred. All donors returned to society promptly after the donor operation. For immunosuppressive drugs, tacrolimus (FK) was used in 17 cases (77.3%) and cyclosporine (CyA) was used in 5 cases. Administration of steroids (prednisone) was limited to 1 week after LDLT in 11 cases (50%), while in the remaining 11 cases administration was continued for a longer period of ≥ 6 months post-operatively. Mycophenolate mofetil (MMF) was also used in 13 cases (59%). As to UNOS TNM, 2 cases were stage I, 4 cases were stage II and 16 cases (73%) were stage IV. Regarding UICC TNM, 2 cases were stage I, 18 cases (82%) were stage II and 2 cases were stage III. Concerning histological differentiation of HCC, well-differentiated HCC was only one case, moderately differentiated HCC were 15 cases

Table II. Background characteristics of recipients who underwent LDLT for HCC according to post-LDLT with or without HCC recurrence.

Factor	All recipients (22 cases)	Recipients without post-LDLT HCC recurrence (13 cases)	Recipients with post-LDLT HCC recurrence (9 cases)
Age, years (mean ± SD)	56±4 (range 47-64)	56±4	55±3
MELD score (mean ± SD)	14±8 (range 1-30)	15±9	11±7
GV/SLV (mean ± SD)	46.3±7.0 (range 36-60)	46.1±7.5	46.6±7.2
Donor age (mean ± SD)	36±12 (range 20-61)	38±13	35±12
AFP (ng/ml) (mean ± SD)	148±264	169±323	118±182
DCP (mAU/l) (mean ± SD)	183±388	85±179	323±573
Gender (female/male)	5/17	5/8	0/9
HCV/HBV	12/10	7/6	5/4
LDLT graft (Left/Right)	5/17	2/11	3/6
Post-LDLT complication, n (%)			
Bile duct stenosis	6 (27)	4 (31)	2 (22)
CMV infection	9 (41)	6 (46)	3 (33)
ACR	5 (23)	2 (15)	3 (33)
Immunosuppressant			
CNI (FK/CyA)	17/5	10/3	7/2
Prednisolone, n (%)	11 (50)	8 (62)	3 (33)
MMF, n (%)	13 (59)	8 (62)	5 (56)
Child-Pugh, n (%)			
A	4 (18)	1 (8)	3 (33)
B	12 (55)	8 (61)	12 (55)
C	6 (27)	4 (31)	6 (27)
UNOS TNM, n (%)			
I,II	6 (28)	6 (46)	0
IV	16 (72)	7 (54)	9 (100) ^a
UICC TNM, n (%)			
I	2 (9)	2 (15)	0
II	18 (82)	10 (77)	8 (89)
III	2 (9)	1 (8)	1 (11)
Histological grade (poorly and combined), n (%)	6 (27.2)	4 (31)	2 (22)
Microvascular invasion, n (%)	16 (73)	9 (69)	7 (78)
Bile duct invasion, n (%)	1 (5)	1 (8)	0
Intrahepatic metastasis, n (%)	11 (50)	5 (39)	6 (67)
SVR, n (%)	14 (64)	7 (54)	7 (78)
Pre-LDLT treatment for HCC, n (%)	15 (68)	9 (69)	6 (67)

^aP<0.05 in the comparison of the with and without post-LDLT HCC recurrence groups using χ^2 test (analysis was considered statistically significant). LDLT, living donor liver transplantation; HCC, hepatocellular carcinoma; GV/SLV, actual graft volume/recipient standard liver volume ratio; AFP, α -fetoprotein; DCP, des- γ -carboxyprothrombin; CMV, cytomegalovirus; ACR, acute cellular rejection; CNI, calcineurin inhibitor; HCV, hepatitis C viral hepatitis; HBV, hepatitis B viral hepatitis; MMF, mycophenolate mofetil; SVR, sustained viral responder for hepatitis C or B virus; SD, standard deviation.

(68%) which accounted for the majority, poorly differentiated HCC were 3 cases and the combined type were 3 cases. In the statistical study, well and moderately differentiated were both considered as differentiated type, while poorly and combined were both considered as poorly differentiated type. There were 13 recipients (59%) who had received prior therapy for HCC and 7 recipients who had received pre-LT therapy to downstage HCC. A total of 15 cases (68%) had a history of prior therapy or had received pre-operative therapy for HCC prior to LDLT. In the 7 cases where pre-LT therapy was performed to downstage HCC, 4 cases were downstaged from above MC to within MC. However, in 2 of these 4 cases where downstaging of HCC was attempted, recurrence of HCC was found after

LT. To date, 8 recipients have died. The cause of mortality was HCC recurrence in 6 cases, accounting for the majority, liver failure due to recurrence of HCV hepatitis in 1 case and cancer in another organ (oropharyngeal carcinoma) in 1 case, but in all 8 cases, recurrence of HCC was found. HCC recurrence in post-LT recipients was found most often in graft liver, but lung metastasis, bone metastasis, adrenal metastasis and peritoneal dissemination or lymph node metastasis were also observed concurrently. There were no operation-related deaths in the recipients. As shown in Table II, a significant correlation of HCC recurrence after LT was found only with UNOS TNM.

As shown in Fig. 1A and C, all cases judged as within Up-to-7 criteria in the pre-operative first imaging diagnosis

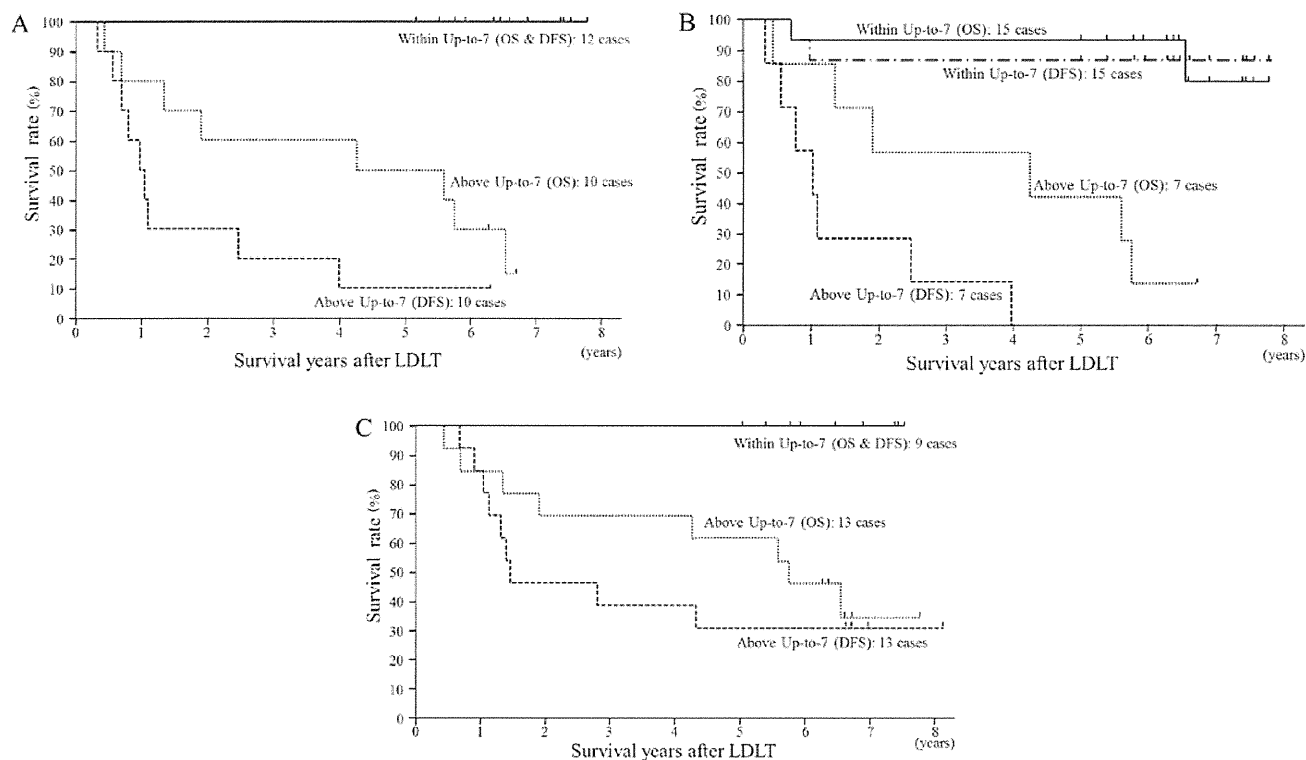


Figure 1. (A) Overall survival (OS) and hepatocellular carcinoma (HCC) disease-free survival (DFS) in living donor liver transplantation (LDLT) patients with HCC according to Up-to-seven (Up-to-7) criteria (permitting microvascular invasion) which were determined by pre-operative first imaging diagnosis. All 12 cases within Up-to-7 criteria survived without HCC recurrence. The OS and the DFS survival rates of within Up-to-7 criteria are statistically significantly ($P < 0.001$) better than above Up-to-7 criteria. (B) OS and DFS in LDLT patients with HCC according to Up-to-7 criteria (permitting microvascular invasion) which were determined by final imaging diagnosis. There were only 2 recurrence cases in 18 cases within Up-to-7 criteria. The OS and the DFS of within Up-to-7 criteria are statistically significantly ($P < 0.001$) better than above Up-to-7 criteria. (C) OS and DFS in LDLT patients with HCC according to Up-to-7 criteria (permitting microvascular invasion) which were determined by pathological diagnosis. All 9 cases within Up-to-7 criteria survived without HCC recurrence. The OS and the DFS of within the Up-to-7 criteria are statistically significantly ($P < 0.05$) better than above the Up-to-7 criteria.

or pathological diagnosis survived without HCC recurrence. On the other hand, in cases judged as above Up-to-7 criteria in the pre-operative first imaging diagnosis and pathological diagnosis, the 5-year DFS was 10 and 21%, respectively, which is poor prognosis. Fig. 1B shows the OS and DFS of recipients based on the Up-to-7 criteria evaluated by pre-operative final imaging diagnosis. Comparing OS and DFS of within Up-to-7 criteria with above criteria, a significant difference was found, and there were 2 cases of recurrence in within Up-to-7 criteria.

Table III shows the OS and DFS of recipients according to the MC, Up-to-7, Asan, Tokyo, Kyoto, and Kyushu criteria based on the pre-operative first imaging diagnosis and pathological diagnosis. Recipients within Asan criteria which permit wider eligibility than Up-to-7 or UCSF criteria had a significantly better prognosis than above criteria, but there were 2 cases of HCC recurrence among the within criteria in pre-operative first imaging diagnosis. The Tokyo criteria gave the same results as the Asan criteria. According to the Asan criteria or Tokyo criteria, two deaths due to HCC recurrence were confirmed based on the pre-operative first imaging diagnosis, thus regarding eligibility for LDLT, the Up-to-7 criteria were deemed the most appropriate criteria. On the other hand, according to the Kyoto criteria, in an evaluation based on pre-operative final imaging diagnosis, there was a significant correlation with the prognosis of recipients, but in an evaluation based on the pathological diagnosis, the prognosis was

not reflected. According to the Kyushu criteria, a significant difference was found in DFS between within criteria and above criteria, but for OS, there was no significant difference. These two criteria appear useful to distinguish patients at very high risk of HCC recurrence in a single high-volume center, but in the current situation where it is not possible to prevent recurrence and no particularly effective therapy after HCC recurrence, they cannot be considered universal standard criteria. The most appropriate criteria which define the prognosis of recipients after LDLT for HCC, for both pre-operative imaging diagnosis and pathological diagnosis, are the Up-to-7 criteria, and in view of the burden of living donors, it should be made the global standard of eligibility criteria for LT in HCC.

As shown in Table IV, the degree of histological differentiation of HCC, the values of serum AFP and serum DCP, and the presence of microvascular invasion were not significantly correlated with the prognosis after LDLT. In other words, microvascular invasion should be admitted as within criteria.

Proliferation of α -SMA-positive CAFs which is thought to be strongly related to cancer progression and invasion, clearly specifies the prognosis after LDLT in HCC. However, α -SMA was not found to be expressed in HCC cancer cells. We categorized the proliferation of α -SMA-positive CAF into the following 3 groups.

Group I (Fig. 2A), 10 cases: low grade proliferation of α -SMA-positive CAFs; proliferation of cancer stroma not

Table III. Outcome of recipients of LDLT for HCC according to published eligibility criteria and α -SMA-positive CAF in HCC.

Eligibility criteria name	Staging method	Classification	Cases (n)	OS (%)				P-value	DFS (%)				P-value
				1-year	3-year	5-year	7-year		1-year	3-year	5-year	7-year	
Milan criteria (1)	Pre-operative first imaging diagnosis	Within criteria	10	10 (100%)	10 (100%)	10 (100%)	4 (100%)	<0.005	10 (100%)	10 (100%)	10 (100%)	4 (100%)	<0.001
		Above criteria	12	10 (83%)	8 (67%)	7 (58%)	-	7 (58%)	4 (33%)	3 (25%)	-		
	Pre-operative final imaging diagnosis	Within criteria	14	13 (93%)	13 (93%)	13 (93%)	4 (77%)	<0.005	12 (86%)	12 (86%)	12 (86%)	4 (86%)	<0.001
		Above criteria	8	7 (88%)	5 (63%)	4 (50%)	-	5 (63%)	2 (25%)	1 (13%)	0		
	Pathological diagnosis	Within criteria	7	7 (100%)	7 (100%)	7 (100%)	4 (100%)	<0.05	7 (100%)	7 (100%)	7 (100%)	4 (100%)	<0.05
		Above criteria	15	13 (87%)	11 (73%)	10 (67%)	1 (40%)		10 (67%)	7 (47%)	6 (40%)	1 (40%)	
Up-to-7 criteria (10)	Pre-operative first imaging diagnosis	Within criteria	12	12 (100%)	12 (100%)	12 (100%)	4 (100%)	<0.0005	12 (100%)	12 (100%)	12 (100%)	4 (100%)	<0.00001
		Above criteria	10	8 (80%)	6 (60%)	5 (50%)	-	5 (50%)	2 (20%)	1 (10%)	-		
	Pre-operative final imaging diagnosis	Within criteria	15	14 (93%)	14 (93%)	14 (93%)	4 (80%)	<0.0005	13 (87%)	13 (87%)	13 (87%)	4 (87%)	<0.00005
		Above criteria	7	6 (86%)	4 (57%)	3 (43%)	-	4 (57%)	1 (14%)	0	0		
	Pathological diagnosis	Within criteria	9	9 (100%)	9 (100%)	9 (100%)	3 (100%)	<0.01	9 (100%)	9 (100%)	9 (100%)	3 (100%)	<0.005
		Above criteria	13	11 (85%)	9 (69%)	8 (62%)	1 (35%)		6 (55%)	3 (27%)	2 (21%)	-	
Asan criteria (2)	Pre-operative first imaging diagnosis	Within criteria	14	13 (93%)	13 (93%)	13 (93%)	4 (80%)	<0.005	12 (86%)	12 (86%)	12 (86%)	4 (86%)	<0.005
		Above criteria	8	7 (88%)	5 (63%)	4 (50%)	-	5 (63%)	2 (25%)	1 (13%)	-		
	Pre-operative final imaging diagnosis	Within criteria	15	14 (93%)	14 (93%)	14 (93%)	4 (80%)	<0.0005	13 (88%)	13 (88%)	13 (88%)	4 (88%)	<0.00005
		Above criteria	7	6 (71%)	4 (57%)	3 (43%)	-	4 (57%)	1 (14%)	0	0		
	Pathological diagnosis	Within criteria	13	12 (92%)	12 (92%)	12 (92%)	4 (79%)	<0.05	11 (85%)	11 (85%)	11 (85%)	4 (85%)	<0.005
		Above criteria	9	8 (89%)	6 (67%)	5 (56%)	-	6 (67%)	3 (33%)	2 (22%)	-		
Tokyo criteria (5-5 rule) (3)	Pre-operative first imaging diagnosis	Within criteria	14	14 (100%)	14 (100%)	13 (93%)	4 (79%)	<0.005	13 (93%)	13 (93%)	11 (86%)	4 (86%)	<0.0001
		Above criteria	8	6 (75%)	4 (50%)	3 (38%)	-	4 (50%)	1 (13%)	1 (13%)	-		
	Pre-operative final imaging diagnosis	Within criteria	16	15 (94%)	15 (94%)	15 (94%)	4 (74%)	<0.005	14 (88%)	14 (88%)	13 (81%)	4 (81%)	<0.00001
		Above criteria	6	5 (83%)	3 (50%)	2 (33%)	-	3 (50%)	0	0	0		
	Pathological diagnosis	Within criteria	11	11 (100%)	11 (100%)	11 (100%)	4 (100%)	<0.005	11 (100%)	11 (100%)	11 (100%)	4 (100%)	<0.00001
		Above criteria	11	9 (82%)	7 (64%)	6 (55%)	-	6 (55%)	3 (27%)	2 (21%)	-		
Kyoto criteria (4,5)	Pre-operative first imaging diagnosis	Within criteria	16	15 (94%)	14 (88%)	14 (88%)	4 (69%)	>0.05	13 (81%)	13 (81%)	12 (75%)	4 (75%)	<0.01
		Above criteria	6	5 (83%)	4 (67%)	3 (33%)	-	4 (67%)	1 (17%)	1 (17%)	-		
	Pre-operative final imaging diagnosis	Within criteria	17	16 (94%)	15 (88%)	15 (88%)	4 (70%)	<0.05	14 (82%)	14 (82%)	13 (76%)	4 (76%)	<0.005
		Above criteria	5	4 (80%)	3 (60%)	2 (40%)	-	3 (60%)	0	0	0		
	Pathological diagnosis	Within criteria	16	15 (94%)	14 (88%)	14 (88%)	4 (63%)	>0.1	13 (81%)	12 (75%)	11 (69%)	4 (69%)	>0.1
		Above criteria	6	5 (83%)	4 (67%)	3 (50%)	-	4 (67%)	2 (33%)	2 (33%)	-		

Table III. Continued.

Eligibility criteria name	Staging method	Classification	Cases (n)	OS (%)					DFS (%)					P-value
				1-year	3-year	5-year	7-year	P-value	1-year	3-year	5-year	7-year	P-value	
Kyushu criteria (6-8)	Pre-operative first	Within criteria	18	17 (94%)	15 (83%)	14 (78%)	4 (61%)	>0.5	15 (83%)	13 (72%)	12 (67%)	4 (67%)	<0.05	
	imaging diagnosis	Above criteria	4	3 (75%)	3 (75%)	3 (75%)	-		2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	-		
	Pre-operative final	Within criteria	18	17 (94%)	15 (83%)	14 (78%)	4 (61%)	>0.5	15 (83%)	13 (72%)	12 (67%)	4 (67%)	<0.05	
	imaging diagnosis	Above criteria	4	3 (75%)	3 (75%)	3 (75%)	-		2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	-		
	Pathological diagnosis	Within criteria	18	17 (89%)	15 (83%)	14 (78%)	4 (61%)	>0.5	15 (83%)	13 (72%)	12 (67%)	4 (67%)	<0.05	
		Above criteria	4	3 (25%)	3 (25%)	3 (25%)	-		2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	-		
α -SMA-positive CAF	Pathological diagnosis	Grade I	10	10 (100%)	10 (100%)	10 (100%)	3 (88%)	<0.0001	10 (100%)	10 (100%)	9 (90%)	3 (90%)	<0.00001	
		Grade II	8	8 (100%)	7 (88%)	6 (75%)	1 (60%)		7 (88%)	4 (50%)	4 (50%)	1 (50%)		
		Grade III	4	2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	0		0	0	0	0		

Survival rates were estimated using the Kaplan-Meier method and compared between groups by the log-rank and generalized Wilcoxon analysis. $P < 0.05$, analysis was considered statistically significant; $P \geq 0.05$, analysis was not considered statistically significant. LDLT, living donor liver transplantation; HCC, hepatocellular carcinoma; α -SMA, α -smooth muscle actin; CAF, cancer-associated fibroblast; OS, post-operative overall survival rate of recipient; DFS, post-operative HCC disease-free survival rate of recipient.

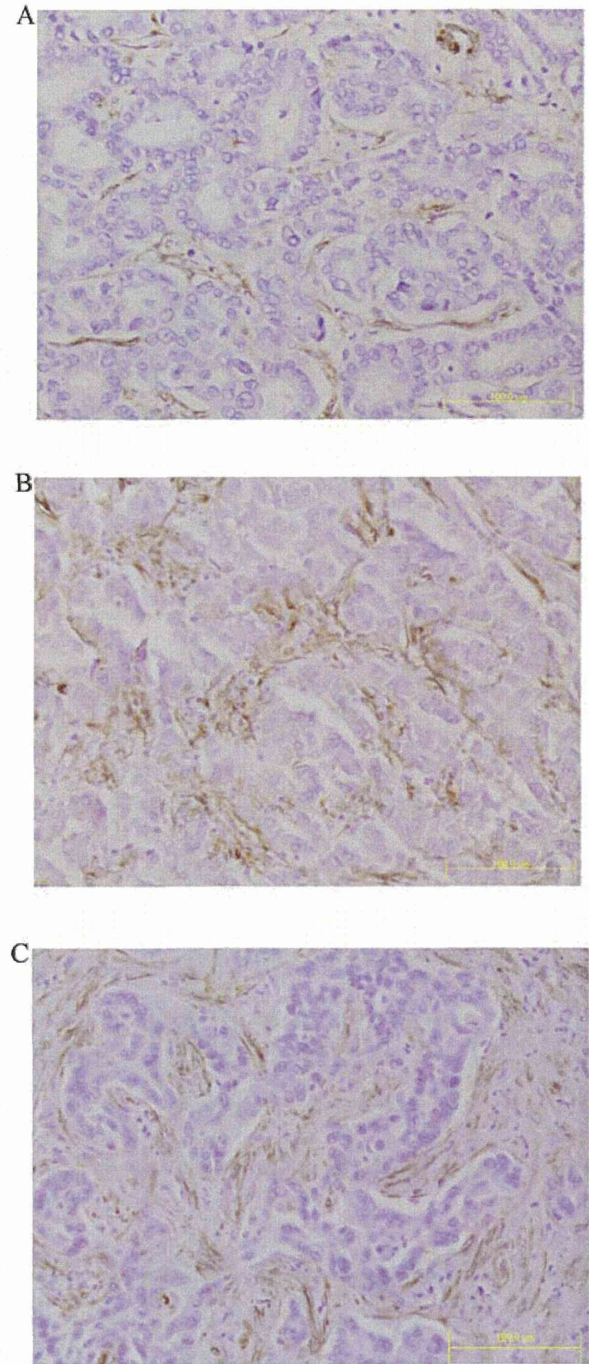


Figure 2. Representative immunohistochemical staining for α -smooth muscle actin (α -SMA) in hepatocellular carcinoma (HCC) tissue sections of living donor liver transplantation (LDLT) patients. (A) α -SMA positivity in cancer-associated fibroblasts (CAFs) of HCC is low grade (<1.0%). (B) α -SMA positivity in CAF of HCC is middle grade (<10%). (C) α -SMA positivity in CAF of HCC is high grade ($\geq 10\%$).

found, only slight proliferation of α -SMA-positive CAFs and staining was <1% of ten fields under high power view.

Group II (Fig. 2B), 8 cases: middle grade proliferation of α -SMA-positive CAFs; cancer nests were bordered over their whole circumference by α -SMA-positive CAFs, but the cancer stroma (CAFs) accounted for <10% of ten fields under high power view.

Table IV. Correlation between α -SMA-positive CAF in HCC of LDLT recipients with clinicopathological factors and published eligibility criteria.

Factor	All redipients (22 cases)	α -SMA-positive CAF	
		Grade I (10 cases)	Grade II, III (12 cases)
Age, years (mean \pm SD)	56 \pm 4	56 \pm 3	55 \pm 4
Gender (female/male)	5/17	5/5	0/12 ^a
MELD score (mean \pm SD)	14 \pm 8 (range 1-30)	15 \pm 9	11 \pm 7
HCV/HBV	12/10	5/5	7/5
Child-Pugh, n (%)			
A	4 (18)	0	4 (33) ^a
B, C	12 (55)	10 (100)	8 (67) ^a
Pre-LDLT treatment for HCC, n (%)	15 (68)	7 (70)	8 (67)
AFP (ng/ml) (mean \pm SD)	148 \pm 264	53 \pm 87	227 \pm 343
DCP (mAU/l) (mean \pm SD)	183 \pm 388	106 \pm 202	246 \pm 508
CEA (ng/ml) (mean \pm SD)	4.4 \pm 1.5	4.4 \pm 1.7	4.5 \pm 1.3
CA19-9 (U/ml) (mean \pm SD)	73.4 \pm 82.6	101.7 \pm 94.7	45.1 \pm 62.7
HCC numbers (pre-LDLT first imaging diagnosis) (mean \pm SD)	5.3 \pm 5.8	2.2 \pm 2.3	7.8 \pm 6.7 ^b
HCC numbers (pathological diagnosis) (mean \pm SD)	6.6 \pm 6.0	4.0 \pm 3.3	8.8 \pm 7.0
HCC maximum diameter (pre-LDLT first imaging diagnosis) (mean \pm SD) (cm)	2.2 \pm 1.6	1.4 \pm 1.4	2.9 \pm 1.5
HCC maximum diameter (pathological diagnosis) (cm)	2.9 \pm 1.2	2.5 \pm 1.2	3.2 \pm 1.1
Sum of all HCC diameters (pre-LDLT first imaging diagnosis) (mean \pm SD) (cm)	7.6 \pm 10.1	2.0 \pm 3.8	12.2 \pm 11.9 ^b
Sum of all HCC diameters (pathological diagnosis) (mean \pm SD) (cm)	10.3 \pm 9.4	6.6 \pm 5.9	13.4 \pm 10.8
UNOS TNM, n (%)			
I, II	6 (28)	5 (50)	1 (8) ^a
IV	16 (72)	5 (50)	11 (92) ^a
Histological grade (poorly and combined), n (%)	6 (27.2)	2 (20)	4 (33)
Microvascular invasion, n (%)	16 (73)	7 (70)	9 (75)
Intrahepatic metastasis, n (%)	11 (50)	5 (50)	6 (50)
Post-LDLT HCC recurrence, n (%)	9 (41)	1 (10)	8 (67) ^a
Recipient mortality, n (%)	8 (36)	1 (10)	7 (53) ^a
Above Milan criteria, n (%)			
Imaging	12 (55)	3 (25)	9 (75) ^a
Pathology	15 (68)	5 (33)	10 (67)
Above Up-to-7 criteria, n (%)			
Imaging	10 (46)	2 (20)	8 (80) ^a
Pathology	13 (59)	4 (31)	9 (69)
Above Asan criteria, n (%)			
Imaging	8 (36)	2 (25)	6 (75)
Pathology	9 (41)	3 (33)	6 (67)
Above Tokyo criteria, n (%)			
Imaging	8 (36)	1 (13)	7 (87) ^a
Pathology	11 (50)	3 (27)	8 (73)
Above Kyoto criteria, n (%)			
Imaging	6 (27)	1 (17)	5 (83)
Pathology	6 (27)	2 (33)	4 (67)
Above Kyushu criteria, n (%)			
Imaging	4 (18)	1 (25)	3 (75)
Pathology	4 (18)	1 (25)	3 (75)

^aP<0.05 in the comparison of the with and without proliferation of α -SMA-positive CAF groups using χ^2 tests (analysis was considered statistically significant).

^bP<0.05 in the comparison of the with and without proliferation of α -SMA-positive CAF groups using the Mann-Whitney U test (analysis was considered statistically significant). α -SMA, α -smooth muscle actin; CAF, cancer-associated fibroblast; HCC, hepatocellular carcinoma; LDLT, living donor liver transplantation; AFP, α -fetoprotein; DCP, des- γ -carboxyprothrombin; HCV, hepatitis C viral hepatitis; HBV, hepatitis B viral hepatitis; SVR, sustained viral responder for hepatitis C or B virus; SD, standard deviation; imaging, HCC in the explanted liver was evaluated by pre-operative first imaging diagnosis; pathology, HCC in the explanted liver was evaluated by post-operative pathological diagnosis.

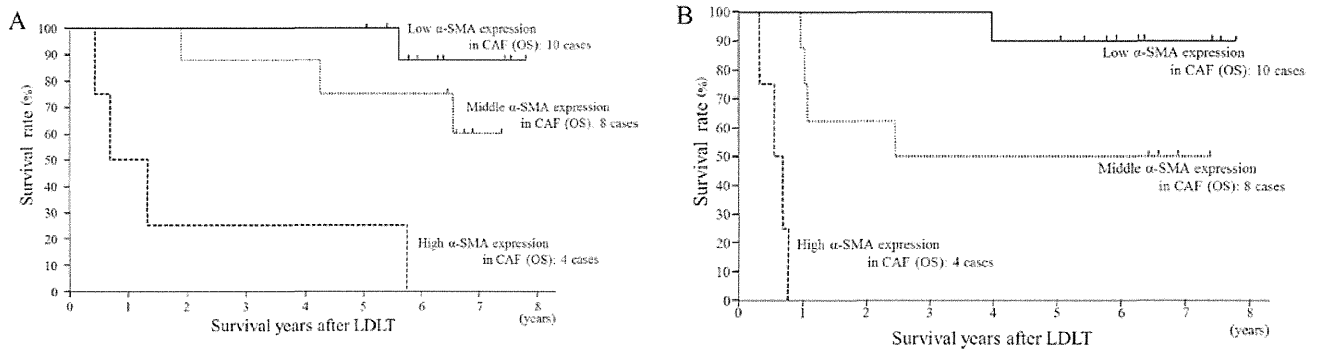


Figure 3. (A) Overall survival (OS) in living donor liver transplantation (LDLT) patients with hepatocellular carcinoma (HCC) according to proliferation of α -smooth muscle actin (α -SMA)-positive cancer-associated fibroblast (CAF) which was determined immunohistologically. Only one HCC recurrence patient died in 8 cases of low grade α -SMA-positive CAF group. All 4 cases of high grade α -SMA-positive CAF died due to HCC recurrence. The high grade α -SMA-positive CAF group had statistically significantly ($P<0.05$) poorer survival rates than the low and middle α -SMA-positive CAF groups. (B) Disease-free survival (DFS) in LDLT patients with HCC according to proliferation of α -SMA-positive CAF which was determined immunohistologically. There was only one HCC recurrence case in 8 cases of low grade α -SMA-positive CAF. All 4 cases of high grade α -SMA-positive CAF presented HCC recurrence soon after LDLT. The high grade α -SMA-positive CAF group had statistically significantly ($P<0.01$) poorer survival rates than the low and middle α -SMA-positive CAF groups, and middle grade α -SMA-positive CAF group had statistically significantly ($P<0.05$) poorer survival rates than the low grade group. There is a statistically significant correlation between post-LDLT HCC recurrence and α -SMA-positive CAF, i.e., α -SMA-positive CAF in HCC may be correlated with malignant potential of HCC progression and metastasis.

Group III (Fig. 2C), 4 cases: high grade proliferation of α -SMA-positive CAFs group; extensive proliferation of α -SMA-positive CAFs and cancer stroma accounted for $>10\%$ of ten fields under high power view.

As shown in Fig. 3, as the proliferation of α -SMA-positive CAFs increased, recurrence of HCC increased significantly, and all 4 patients in group III died soon after LDLT due to recurrence of HCC. In above Up-to-7 criteria recipients, significant proliferation of α -SMA-positive CAFs was found. In the 2 of 3 recipients who underwent HCC downstaging from above Up-to-7 to within MC by pre-LDLT therapy, recurrence of HCC was found after LDLT, and in one of these 2 cases, proliferation of α -SMA-positive CAFs was observed. On the other hand, in the one case without recurrence, proliferation of α -SMA-positive CAFs was not observed. In above Up-to-7 criteria recipients accompanied by proliferation of α -SMA-positive CAFs, the risk of HCC recurrence is very high, therefore post-operative adjuvant chemotherapy should be performed to improve survival. To improve the prognosis of recipients with HCC recurrence, appropriate anticancer therapy following recurrence is critical. We applied RFA to HCC recurrence in graft liver, and in 2 cases of recurrence with metastasis only to the lung, partial lung resection was performed. We also performed surgical resection for lymph node metastasis in the abdominal cavity. Moreover, we performed irradiation and administered molecular target drugs, and confirmed that in cases of HCC recurrence, the prognosis was improved by these intensive therapies. The proliferation of α -SMA-positive CAFs is closely related to the Up-to-7 criteria. The proliferation of α -SMA-positive CAFs, as shown in Table IV, is unrelated to pre-operative therapy or histological grade of HCC, values of tumor markers, presence of microvascular invasion, or hepatitis viruses (HBV or HCV), and appears to be a major prognostic factor in the recurrence of HCC.

From the predictors which define HCC recurrence after LT in univariate analysis, we performed a Cox-proportional multivariate analysis using three key factors such as the Up-to-7 criteria, the Tokyo criteria and proliferation of α -SMA-positive

Table V. Multivariate analysis for recipient OS using Cox's proportional hazard model of statistically more significant prognostic indicators such as Up-to-7 criteria, Tokyo criteria and α -SMA-positive CAF in hepatocellular carcinoma in univariate analysis.

Predictors	Hazard ratio	
	95% CI	
Up-to-7 criteria ^a	61.62	2.24-1697.97
α -SMA-positive CAF ^b	8.46	1.32-54.06
Tokyo criteria ^a	0.03	0.00-1.74

^aCriteria were evaluated by pre-operative final imaging diagnosis.

^b α -SMA-positive CAF was categorized for three grades. OS, overall survival; Up-to-7, Up-to-seven; α -SMA, α -smooth muscle actin; CAF, cancer-associated fibroblast; CI, confidence interval.

CAFs (Table V). From the results, we determined that the Up-to-7 criteria and proliferation of α -SMA-positive CAFs are both independent, most significant prognostic factors of LDLT for HCC.

Fig. 4 shows the outcome of the present study which is the relationship between tumor number, maximum tumor diameter, microvascular invasion and proliferation of α -SMA-positive CAFs respectively for the pre-operative first imaging diagnosis prior to LDLT and pathological diagnosis. As shown in Fig. 4A based on the pre-operative first imaging diagnosis, all within Up-to-7 criteria cases survived without HCC recurrence, accounting for the largest number of cases, so these criteria appear to be the most suitable for LDLT for HCC. There were 4 cases that were diagnosed with no viable cancer lesions by pre-operative therapy for HCC such as TACL and RFA in pre-operative first imaging diagnosis, but these 4 cases had viable HCC cells. On the other hand, based on pathological diagnosis (Fig. 4B), all within Tokyo criteria recipients survived without HCC recurrence, accounting

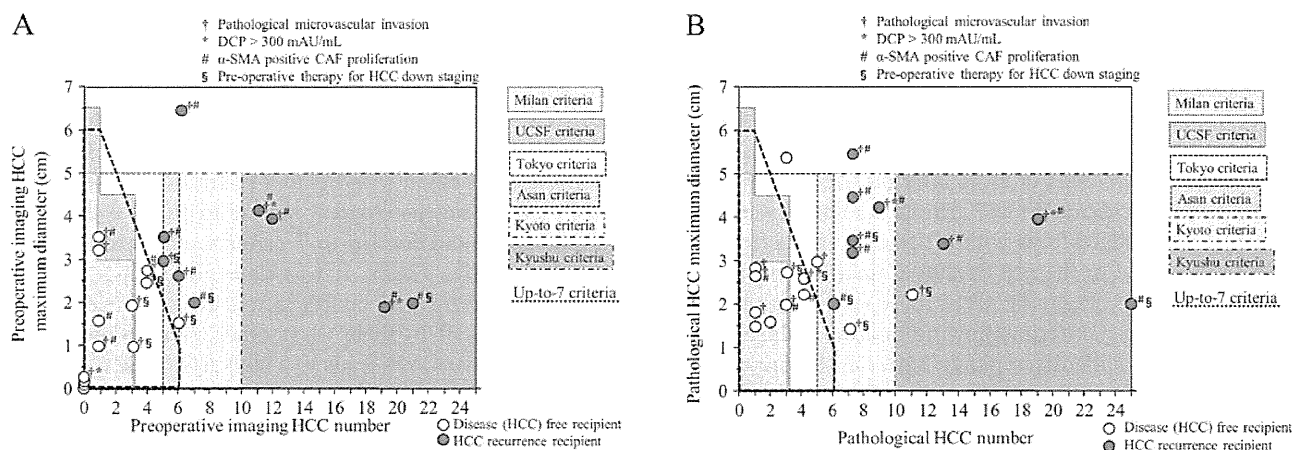


Figure 4. (A) Correlation between pre-operative imaging of hepatocellular carcinoma (HCC) maximum diameter and HCC number in living donor liver transplantation (LDLT) recipients (22 cases). This figure expresses the correlation between some eligibility criteria of liver transplantation (LT) for HCC with maximum tumor diameter, tumor number, microvascular invasion and proliferation of α -smooth muscle actin (α -SMA)-positive cancer-associated fibroblasts (CAFs). All 12 cases within Up-to-seven (Up-to-7) criteria survived without HCC recurrence. In above Up-to-7 criteria, only one case survived without HCC recurrence, and all other 9 cases presented HCC recurrence. (B) Correlation between pathological HCC maximum diameter and HCC number in LDLT recipients (22 cases). This figure expresses the correlation between some eligibility criteria of LT for HCC with maximum tumor diameter, tumor number, microvascular invasion and proliferation of α -SMA-positive CAFs. All 9 cases within Up-to-7 criteria survived without HCC recurrence. In above Up-to-7 criteria, all 4 cases that survived without HCC recurrence had no proliferation of α -SMA-positive CAF.

for the largest number of cases, so this would appear to be the most significant criteria from the viewpoint of recipient benefit. No proliferation of α -SMA-positive CAFs in HCC was found in the 4 recipients without post-LDLT HCC recurrence, who were diagnosed above Up-to-7 criteria by post-operative pathological diagnosis.

Discussion

LT continues to be associated with significant morbidity and mortality despite improvements in surgical techniques and immunosuppressive regimens. Furthermore, unlike other forms of oncological surgery, LT requires a donor organ. In view of this, utility and fairness need to be considered in relation to allocation for both donor and recipient. For this reason, the application of strict eligibility criteria such as MC has evolved as an important aspect of current clinical practice. In Japan, whether or not pre-transplant therapy is performed for HCC at 3 months prior to LT, within MC, is an essential requirement for receiving DDLT, and is also an essential requirement for receiving LDLT under the health insurance. In LDLT, since a healthy donor takes a major risk, HCC recurrence must be avoided after LT in recipients. As there is no absolute curative treatment for HCC recurrence, LDLT should be performed while adhering to strict eligibility criteria so that HCC does not recur after LT. In the present study, the OS and DFS after LDLT in patients who met Up-to-7 criteria in both pre-operative evaluation and pathological evaluation were 100% although including recurrence of HCV hepatitis, we support that Up-to-7 criteria are well-established tools for assessing the prognosis of HCC. In the pre-operative first imaging diagnosis and pathological diagnosis, there were no cases which were above MC and within UCSF criteria; however, there were 2 cases which were above MC and within Up-to-7 criteria. Therefore, we did not compare Up-to-7 criteria exceeding MC

and UCSF criteria but, as shown in Fig. 4, the Up-to-7 criteria broadly cover the UCSF criteria. Moreover, in view of the fact that the only patient who survived without HCC recurrence above Up-to-7 criteria was also close to within criteria, it seems most appropriate to take the Up-to-7 criteria as suitable global standard criteria for LT in HCC.

Some of the published criteria of LT for HCC do not affect the OS after LT and appear to underestimate the risk of HCC recurrence. The reason for this may be that benign/malignant borderline lesions, such as high-grade degenerative nodules (17,23-25), are counted as HCC. High-grade degenerative nodules must be clearly distinguished from HCC and a consensus has already been reached regarding this difference (17,25). If high-grade degenerative nodules are included in HCC, it detracts from the reliability of the criteria itself. Pathologically, the ideal criteria are the Tokyo criteria, but 2 cases of recurrence were found in pre-operative first imaging diagnosis, and it is difficult to conclude that Tokyo criteria would have better eligibility criteria than the Up-to-7 criteria.

Downstaging. The downstaging refers specifically to treatment undertaken to convert a tumor with morphology beyond established LT criteria (and therefore not a candidate for LT) to a size that is within criteria and therefore enable a patient to become an LT candidate. Any assessment of the efficacy of a downstaging protocol needs not only a clear definition of which patients would be considered for downstaging, but also a clear definition of eligibility criteria that need to be met for the patient to qualify for LT. Furthermore, some protocols require a period of stability once LT criteria have been met prior to activation on waiting. Such a restriction should ensure that patients with tumors that exhibit unfavorable biology, which would be expected to translate into an increased risk of recurrence, are excluded. However, comparable post-LT outcomes in recipients who had been successfully downstaged

to recipients within MC (26-28) have been demonstrated. In the present study, we performed pre-LT therapy for downstaging in 7 recipients. Pre-LT therapy consisted of 5 cases in which only TACL was performed, and 2 cases in which RFA was performed in addition to TACL. In both situations, LDLT was performed at 3 months or more after pre-LT therapy. Four of the 5 recipients above Up-to-7 criteria who underwent pre-LT therapy were judged to be within Up-to-7 criteria from above Up-to-7 criteria in the pre-operative final diagnosis, but in the pathological diagnosis, all of these cases were judged to be above Up-to-7 criteria (allowing microvascular invasion). The reasons for the discrepancy between the pre-operative final imaging diagnosis and the pathological diagnosis are that minute, residual viable cancer lesions of TACL therapy were not identified in the images, and small HCC was judged as high-grade degenerative nodules in the pre-operative diagnosis.

α -SMA-positive CAF (myofibroblastic CAF). Lysophosphatidic acid (LPA) accelerates HCC progression by recruiting peritumoral tissue fibroblasts (PTFs) and promoting their transdifferentiation into myofibroblasts (18). Following transdifferentiation, pretumoral tissue fibroblast expressed α -SMA and enhanced proliferation, migration and invasion of HCC cells occur. In the present study, proliferation of α -SMA-positive CAFs in HCC was significantly correlated with metastasis of HCC and above Up-to-7 criteria, and was therefore significantly considered a poorer prognosis factor equivalent to Up-to-7 criteria in post-LDLT recipients with HCC. It is generally accepted that HCC originates from hepatocytes but grows and advances while fully embedded in a surrounding microenvironment with a rich content of myofibroblasts, fibroblasts, and other cell types due to the underlying cirrhosis. Liver myofibroblasts, derived from quiescent fibroblasts and hepatic stellate cells activated by the chronic injury, can be recognized by their expression of α -SMA (29,30). Myofibroblasts have been detected at the advanced edge of several different malignancies as the predominant phenotype in the CAF population (31). Although the origin of CAF remains controversial, their immunophenotypical characterization, which primarily includes α -SMA and excludes epithelial and endothelial common markers, is widely accepted (29,32,33). CAFs differ from PTFs not in terms of somatic mutations but, rather, in terms of molecular and functional differences in modulating neighboring cancer cells (34,35). However, the paracrine crosstalk between HCC and stromal fibroblasts such as CAF or pretumoral tissue fibroblast is poorly understood. Stromal myofibroblasts in HCC and matching peritumoral tissues is detected by staining with anti- α -SMA antibody (29). It was found that α -SMA-positive cells were mainly expressed within the tumor stroma (18).

We also performed an immunohistochemical study for biological markers of epithelial mesenchymal transitions (EMT) in HCC which are thought to be related to cancer invasion and metastasis (36,37) (data not shown). It is reported that downregulation of E-cadherin (36-39), weakened expression (39) or overexpression of N-cadherin (40), overexpression of β -catenin (36-38), overexpression of vimentin (41,42), overexpression of Snail (36,43), overexpression of Slug (36) and overexpression of TWIST (36,39) are poor prognosis factors for HCC. We performed immunohistochemical study of these

markers. The recipients with overexpression of vimentin or Snail had significantly higher risk of HCC recurrence after LT, but it did not have as much of an impact as expression of α -SMA-positive CAFs by α -SMA immunostaining. Also, when we performed a multivariate analysis using Cox's proportional method with Up-to-7 criteria or α -SMA-positive CAFs, and other histological factors in HCC, a clear correlation was found for Up-to-7 criteria and proliferation of α -SMA-positive CAFs. It was determined that these two factors alone were independent factors that specified prognosis or DFS after LDLT (Table V). In other words, proliferation of α -SMA-positive CAFs leads to a high risk of HCC metastasis and the prognosis is extremely poor even if LT is performed.

Microvascular invasion of HCC. The investigated cases in the present study did not include any cases of macrovascular invasion, and since it is reported that macrovascular invasion is a significant risk factor for recurrence of HCC (2,44-46), there is no indication of LT. On the other hand, as regards microvascular invasion, it has been reported to worsen prognosis after LT for HCC (47) and there is a conflicting report that it has no effect on the prognosis (44). If we limit the discussion to within Up-to-7 criteria, it has also been reported that the presence of microvascular invasion does not define the prognosis after LT for HCC (48). As regards the MC and Up-to-7 criteria, microvascular invasion is regarded as a factor of above criteria but, in this study, microvascular invasion did not contribute to HCC recurrence after LDLT. It is more difficult to determine the presence of microvascular invasion from pre-operative imaging (49-51), and we consider microvascular invasion should be included in the within eligibility criteria of LT for HCC. The histological type such as the combined HCC type or the poorly differentiated HCC type, and the presence of intrahepatic metastasis did not contribute to HCC recurrence after LDLT.

Pre-operative imaging diagnosis. One common methodological flaw in studies identifying clinical predictors of favorable outcome is the use of explant pathology to provide information on tumor maximum diameter and number, with the derived criteria being subsequently applied to radiological assessments of tumor burden. However, radiological staging can be limited in accuracy; indeed, review of the Eurotransplant Allocation System demonstrated a 34% accuracy of radiology in comparison to explant pathology, with tumor absent in 8.3% of patients, overstaging of the tumor in 36.2% and understaging in 10.4% (52). This is clinically significant as radiological understaging translates into inferior outcomes (53). If the precision of HCC imaging diagnosis is low, the reliability of the criteria decreases, so pre-operative imaging diagnosis must be performed accurately using multiple modalities. In order to enhance imaging diagnostic ability in HCC, the authors, in addition to dynamic MDCT and Gd-EOB-DTPA-MRI (12,13), also perform CT with angiography (CTAP and CTHA) as far as possible (14-17). We believe that by combining these tools, the ability to diagnose HCC can be enhanced to the maximum level. By performing these three tools of pre-operative imaging, the ability to diagnose benign/malignant borderline lesions and local recurrence foci after RFA or TACL therapy is also enhanced, which